

鉱物、岩石ゲームで理解

福井大院生開発カード型教材

坂井・丸岡南中生が体験



鉱物のカードを使ったゲームに挑戦する生徒
＝24日、坂井市丸岡南中

福井大大学院教育学部が24日、坂井市丸岡南中で行われた。生徒たちは楽しみながら、鉱物の種類や岩石の成り立ちなどに理解を深めた。

カードゲームは、同研究科理数・生活教育コース2年の浜多嘉太さん(24)と齋藤恭子さん(23)が、教材開発に取り組み、授業「協働実践研究プロジェクト」(浅原雅浩教授)で製作した。

6種類の鉱物を取り上げ1種類につき6～15枚の計54枚で1セット。鉱物の写真のほか産地、有色か無色かなどが書かれている。ルールはポーカーを元に考案。岩石は鉱物が組み合わさってできており、プレイヤーは手札のカードを捨てたり中央に置かれた山札を引いたりして出来上が

った岩石の種類で勝敗を競う。丸岡南中では2年4組の31人が体験。ルール説明の後、4人1組で頭をひねりながら挑んでいった。細川珠理也さん(14)は「1年の時に習った単元で忘れていた部分もあったが、楽しく復習できた」と笑顔だった。齋藤さんは「丸岡記で終わってしまいがちな単元。カードを使って考えながら学んでくれたら」と話していた。カードは80セットを製作。県内の中学校などに貸し出し、教材として役立ててもらおう。問い合わせは福井大広報センター ☎0776(27)9733。(黒田美紗)